

学研高山地区及び周辺地域 魅力あっぷ通信

R7.12 Vol.3

発行：生駒市学研推進課

学研高山地区と周辺地域の皆さんとワークショップで意見交換を行いました。

令和7年度のワークショップの目的

今年度は、これまでの取組みの中でいただいたご意見等をもとに、学研高山地区及び周辺地域において、地域の拠点となる魅力的な施設の具体化を図るため、4つのテーマを設定し、拠点構想案の作成に取組みます。

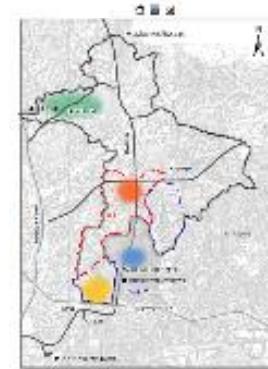
具体化を図る4つのテーマ

自然・歴史文化との
共生拠点

周辺地域の
暮らしの充実拠点

広域的な地域交流拠点
地産地消、魅力発信、地域産業振興など

大学と地域の
連携・協力拠点



テーマに近いエリア

概要 【日程・場所】令和7年11月7日(金)・奈良先端科学技術大学院大学

【アドバイザー】奈良県立大学 教授 佐藤 由美氏

【参加者】26名(第2工区地権者、周辺住民の方、地域事業者、学生・留学生、大学教職員)

【事務局】生駒市・奈良先端科学技術大学院大学

今年度のワークショップ開催までのながれ

生駒市は、学研高山地区第2工区のまちづくりを地権者とともに取組んでいるところです。

令和6年度には、奈良先端科学技術大学院大学と連携して、学研高山地区第2工区及び周辺の地域を含めた高山地区全体の魅力を高めることを目的としてワークショップを行いました。それらの結果等を基に、令和7年6月には主に市民を対象としたアンケートを実施し、高山地区全体の魅力向上につながる機能について広く意見を募りました。

令和6年度ワークショップ

地元の方々や事業者、地域活動団体の皆様と、高山の地域資源の再認識や活用方法、どんなものがあればより魅力的な地区になるのかを考えました！全2回で計36名が参加され、高山地区の魅力向上につながるアイデアを出し合いました。



令和6年度の様子

市民アンケート（令和7年6月）

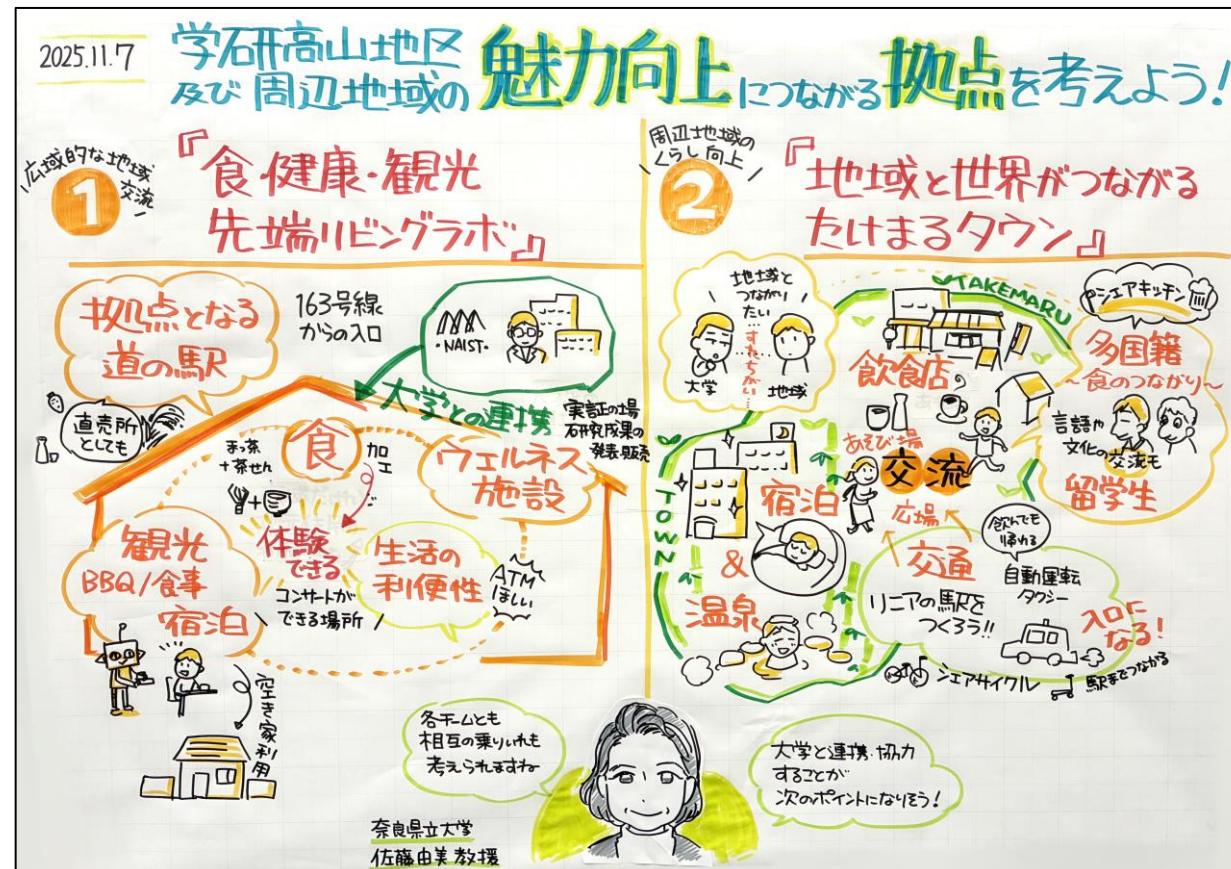
上記ワークショップで出されたご意見等をもとに必要な機能例をまとめ、主に市民の皆さんを対象に「あったらいいな」と思う機能についてのアンケートを行いました(約1,650件の回答)

主な意見として、地域資源を活用した販売所や飲食店、暮らしやすさにつながるもの、大学との連携、自然を活かしたまちなどが挙がり、高山の魅力・高山らしさを活かしながらも、暮らしの充実につながるようなご意見が多く集まりました。



当日の記録 「意見交換で生まれた施設のイメージ」

4つのテーブルに分かれ、テーマを実現することができる施設のイメージを出しあい、まとめました。



広域的な地域交流拠点

食・健康・観光の
わくわく先端リビングラボ

周辺地域の暮らしの充実拠点

地域と世界がつながる
“たけまるタウン”

リビングラボ

生活空間を活用した企業や大学等の実証実験の場、市民や地域が主役となり、様々な課題解決のために新しい技術・サービスを企業等と共に創。

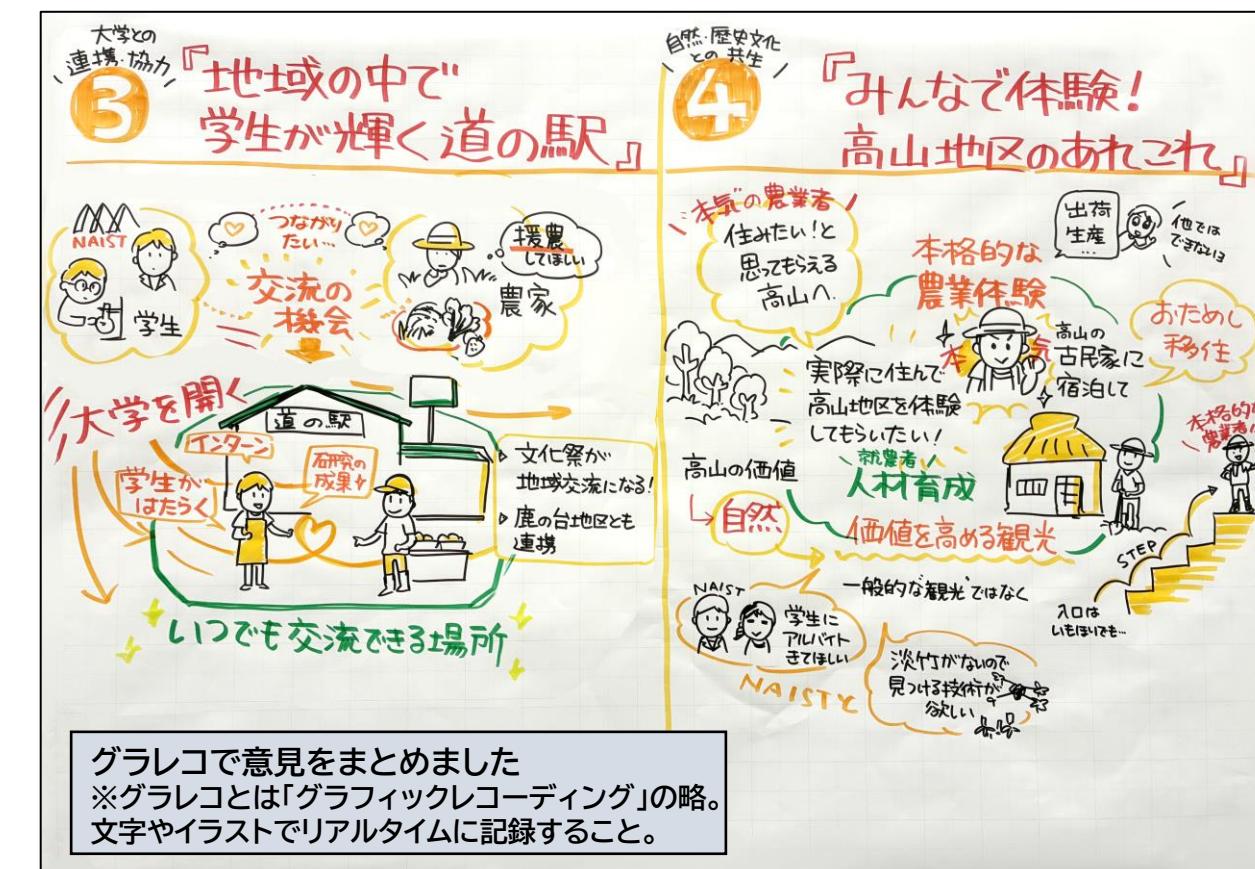
3つのテーマの研究・実証・体験

共同研究による農産物を活用した飲食店、医工連携の成果物としてのヘルスケアサービス、最新テックの展示も兼ねた観光施設などを併設し、研究成果の実証・紹介の場。

施設の魅力を高める生活利便機能

住民や来訪者に便利なATMや交通系のサービス等も用意。

健康など身近なテーマがあると、地域にも非常に価値あるものになりますね。



大学と地域の連携・協力拠点

地域の中で
学生が輝く道の駅

自然・歴史文化との共生拠点

みんなで体験!
高山地区のあれこれ

高山の中心的存在に

竹を活かしたまちのシンボル的施設。地域住民だけでなく、観光客も訪れるような場所。

「地域交流」「国際交流」

住民や留学生、国内外の研究者などが繋がる場所。海外料理店、語学力フェアやシェアキッチンなど、多彩な交流の実現。

宿泊施設・温浴施設・商業施設

高山の地域資源や特徴を活かした宿泊施設。温浴施設・食とともにくつろぎの時間を提供。シェアサイクル・自動運転拠点などにより利便性も向上。

密な人と人との交流の一方、グローバル要素もあるところが面白いですね。

学生・大学と地域の交流

学生の研究成果物の発表・販売などの他、例えば地域農業者と連携した共同研究、企業と連携して開発した技術の社会実装の場。

大学の技術や成果の発表・実証

大学の技術や成果を対外的にアピールし、大学と地域・企業が会える場。民間共同研究拠点、成果物の販売所、大学ミュージアム等「そこに行けば大学と繋がる」場。

寮・アパート・ゲストハウス

観光客、学外研究者と学内研究者・学生が交流が持てるような施設。

未来に繋がる「ディープな体験」

農業であれば、収穫体験だけでなく、中長期で「農業」を体験できるプログラムや拠点の整備。将来の就業も意識できる体験や交流の場。

お試し移住で魅力PR & 地域交流

希望者には古民家などを活用したお試し移住により、実際の高山の生活を体験してもらう。高山の魅力アピールと同時に、移住後・就業後ギャップを解消。

高山の自然 & 文化体験

キャンプやグランピング、野点や茶筌体験等、入り口としての仕掛けも必要。

佐藤先生
コメント

大学と地域・企業の交流、研究成果の発表、社会実験等、新しい道の駅ですね。

宿泊は自然・文化を体験には重要な要素です。他地域との連携もあるといいですね。

話し合い内容

4つのエリアそれぞれに「あったらいいな」と思う施設に必要な機能やグループ分けについて話し合いました。最後に、出た意見をまとめた施設のキャッチコピーを考えました。

必要な機能

ワークショップやアンケートで出されたアイデアをもとに、各拠点候補地にどんな機能をおいたら良いかを考えました。大学連携、自然体験、宿泊施設、飲食店など色々なアイデアが出てきました。

グループ(ユニット)

地域の農産物と飲食店を組み合わせたり、お試し移住と組み合わせた農業体験など…。様々な機能や地域資源を組み合わせてユニット化しました。

キャッチコピー

高山のどんな魅力を伝えたいか、その拠点施設はどんな特徴があるのか。

様々な機能が想定される拠点施設のキャッチコピーを考えよう！ということで、参加者で知恵を絞りました。

総括コメント（アドバイザー 佐藤 由美 教授より）

今回のワークショップにあたり、6月に実施した市民アンケートの結果を踏まえることで、市内全域の高山への期待を取り入れることができました。

また、今日のすべてのチームで大学や地域との連携が話題にあがるなど、大学と地域の連携が重要であるとの認識も共有できました。このように地域や市民の意見を反映できたということが、今回のワークショップの大きなポイントだと思います。



当日の様子

これからの予定

次回は、第1回ワークショップで各グループから出ているアイデアを、全体で共有し、必要な機能を整理する予定です。様々な機能を地域全体で最適となるように具体化・配置し、高山の魅力がより伝わるように機能の精査や、実現するためには他に何が必要か等を考えます。

■第2回ワークショップ

令和7年12月22日(金)15:30～ @奈良先端科学技術大学院大学

■第3回ワークショップ

令和8年2月10日(火)15:30～ @奈良先端科学技術大学院大学